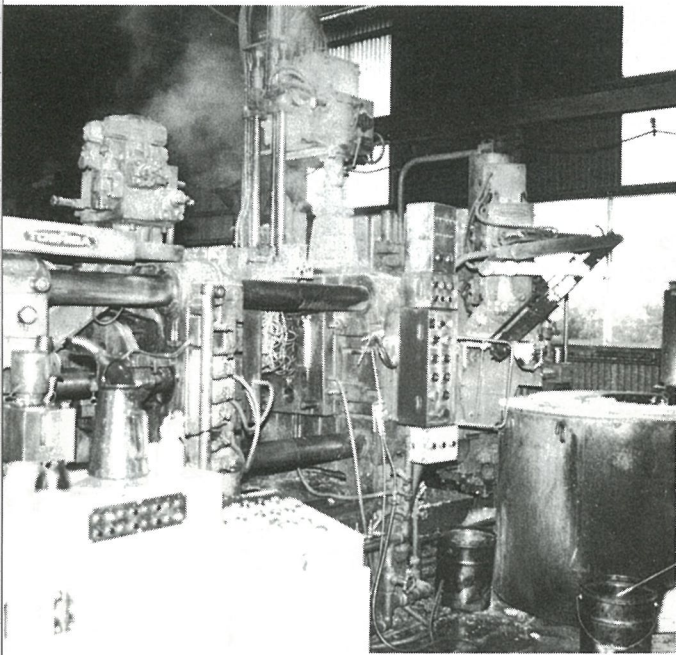


町内の会社 紹介します

株式会社佐々木ダイガスト
所在地 橋 場
代表取締役 佐々木 鉄雄氏

株式会社佐々木ダイガストは主にアルミを原料として作られるあらゆる部品を製造している会社です。

現在は、主にコンピューター部品（フロッピー装置部）・自動車部品（ブレーキ部に使われる）・照明器具用部品・農機具用部品が作られています。



作業中の全自動ダイガストマシン

イゴット（アルミなどの原料の固まり）を炉の中に入れ溶かします。溶けた原料を全自動ダイガストマシンがくみ取り、金型部分へ流し込みます。そうすると何秒もかからないうちに部品が出来上がります。必要に応じて磨いたり、穴を開けたり、塗装したりしてから検査をし、大手提携企業へ出荷されます。

その年により、注文を受ける品が大部違い、二三年前にはハレー星ブームのせいか、望遠鏡や、双眼鏡の部品が多かったそうです。

このように時代に合った、必要とされる物が作り出されています。

昭和四十四年に設立され、現在に至っています。

町長 ひとくごと

斉藤 譲

帰宅の遅い日が続いた。そんなある日、ふと見上げた夜空は

満天に冬の星座が寒い木枯しの中でうるむように光り輝いていた。暗い庭の片隅には、ほのかに白く梅の花が咲き、しじまをとおしてかすかな香りを漂わせていた。

驚きであった。

忙殺されている間に、季節はいつしかめぐり、また躍動の春を迎えようとしていたのである。

町長に就任してから早くも九カ月が過ぎ、今更ながら時の流れの速さを感じると同時に、職務や雑務に追われ、自然の変化にさえ気づかぬほど心のゆとりを失くしていた自分が恥かしく反省している。

私達は、いま氾濫する物質文明の中で際限なく物を求めて生きている。ともすると生活の豊かさは、物の多少で決まると思っている人さえいる。これも人生観だといえればそれまでであるが、これでは余りにも寂し

い。

現代に生きる私達は、物の魅力にとりつかれ何か大事なものを失っているようだ。

それは大自然の恵みである。

人間は、科学の進歩、発展によってあたかも大自然をも克服できるかの如き錯覚をもっている。しかし、これは幻想であり、不遜である。自然は無限であり、人間の知恵は、これとは比較にならぬ程小さく、所詮は釈迦の手中を飛ぶ遜悟空でしかあるまい。

私達は、大自然の懷に抱かれて生きているのにもかかわらず余りにも自然を無視して生きている。古代びとは、自然に對し、畏れと慈みをもって接した。彼らが残した万葉集をはじめ、幾多の歌集には、自然と渾然となつた人間の心を歌ったものが多い。彼らは、かすかな風の気配や、微妙な光の変化にも四季の移ろいを感じ、その感動を歌にあらわしている。

それにひきかえ現代に生きる私達は自然に對して無神経、無感動すぎるようである。私達は、ふだん「緑豊かな自然を守る」などという言葉を手紙で使っているが、その実、日常は自然とは無縁にしていることが多く、自然を単なる枕語に使っているような気がしてならない。

豊かな人生、生活の基盤づくりは自然への回帰からはじまる。私達大人も勿論であるが、特に子供達には目を大きく自然に向けさせなければならぬ。他人を思いやるやさしい心や芸術は、自然の驚きの中から生まれるのである。

いま、枯草の中からうす紫のイヌフグリの可憐な花が顔をのぞかせ、まもなく紫の絨氈を敷きつめることだろう。

そうすると、春は足音をたててやってくる。

